

祝伊万里湾縣立公園誕生

祝賀古色ゆかしき大念佛
興を添えた女相撲

7月23日 伊万里小学校で舉行

五月二十日付縣告示を以て伊万里灣が縣立公園に指定された。

その区域は國見山、鳥帽子岳、高尾山を結ぶ

三角形の稜線の下、玄海の怒濤を去けて古事と史蹟に

富む静寂そのものゝ伊万里灣を閉む千二百万坪に及ぶ

廣大な地域で、時勢の脚光を浴びて登場する伊万里灣

臨海工業に錦上花を添えるものとしてその將來が囁き

される。この日市ではその前途を祝い、第一会場を竹

の古場、第二会場を高尾山公園に指定、尙灣内一周を

も兼ねて大々的祝賀行事を舉行予定のこと、雨天の

ため止むなく会場を伊万里小学校に変更、知事代理官

副經濟部長、山下縣會議長、福岡縣觀光協會長、山中佐

世保市長始め各市長及び縣内各市觀光協會長他百数十

名に上る來賓參列の下に祝賀式を舉行した。尙当日毎

日新聞西部本社では祝賀飛行を行い、メッセージを投下

その前途を祝し、餘興として脇野の大念佛踊り、滝川

内浮立、地元藤間会の手踊り、それに全国に名を馳せ

た波多津町女相撲など繰出し終日祝賀氣分に溢れた。

◎ 伊万里 湾

本灣は漏斗状をなし巾六糠、奥行十四糠の細長い灣で、鷹島、福島の二島で天然の防波堤をつくり玄海の風波を去けこの上なぎ好鋪地である、爲めに古来良港として大陸文化の輸入に貢献、又静かな湾内は魚類の棲息地として漁業發展の因をなし、古來「腐つても桶久鯛」の名を残している。嘗ては軍港候補地として佐竹の古場公園

○ 名勝 史蹟

○ 竹の古場公園

市内東山代町里停留所から

公園に達する。郷土の詩聖

線となる。松浦開発の祖、

松浦直公をまつる青幡神社

を右に見てだらだら坂を登る

こと数分、変電所を通じ

ると坂は益々急に風景

を始め腰岳、鳥帽子の縁の

風景

を眺めると、

谷口藍田をして鯉湖と称せ

る。眼を西南に轉すると

伊万里灣は

北に開け、やがて竹の古場

公園に達する。

郷土の詩聖

線となる。松浦開発の祖、

松浦直公をまつる青幡神社

を右に見てだらだら坂を登る

こと数分、変電所を通じ

ると坂は益々急に風景

を眺めると、

谷口藍田をして鯉湖と称せ

る。眼を西南に轉すると

伊万里灣は

北に開け、やがて竹の古場

公園に達する。

郷土の詩聖

線となる。松浦開発の祖、

松浦直公をまつる青幡神社

を右に見てだらだら坂を登る

こと数分、変電所を通じ

ると坂は益々急に風景

を眺めると、

谷口藍田をして鯉湖と称せ

る。眼を西南に轉すると

伊万里灣は

北に開け、やがて竹の古場

公園に達する。

郷土の詩聖

線となる。松浦開発の祖、

松浦直公をまつる青幡神社

を右に見てだらだら坂を登る

こと数分、変電所を通じ

ると坂は益々急に風景

を眺めると、

谷口藍田をして鯉湖と称せ

る。眼を西南に轉すると

伊万里灣は

北に開け、やがて竹の古場

公園に達する。

郷土の詩聖

線となる。松浦開発の祖、

松浦直公をまつる青幡神社

を右に見てだらだら坂を登る

こと数分、変電所を通じ

ると坂は益々急に風景

を眺めると、

谷口藍田をして鯉湖と称せ

る。眼を西南に轉すると

伊万里灣は

北に開け、やがて竹の古場

公園に達する。

郷土の詩聖

線となる。松浦開発の祖、

松浦直公をまつる青幡神社

を右に見てだらだら坂を登る

こと数分、変電所を通じ

ると坂は益々急に風景

を眺めると、

谷口藍田をして鯉湖と称せ

る。眼を西南に轉すると

伊万里灣は

北に開け、やがて竹の古場

公園に達する。

郷土の詩聖

線となる。松浦開発の祖、

松浦直公をまつる青幡神社

を右に見てだらだら坂を登る

こと数分、変電所を通じ

ると坂は益々急に風景

を眺めると、

谷口藍田をして鯉湖と称せ

る。眼を西南に轉すると

伊万里灣は

北に開け、やがて竹の古場

公園に達する。

郷土の詩聖

線となる。松浦開発の祖、

松浦直公をまつる青幡神社

を右に見てだらだら坂を登る

こと数分、変電所を通じ

ると坂は益々急に風景

を眺めると、

谷口藍田をして鯉湖と称せ

る。眼を西南に轉すると

伊万里灣は

北に開け、やがて竹の古場

公園に達する。

郷土の詩聖

線となる。松浦開発の祖、

松浦直公をまつる青幡神社

を右に見てだらだら坂を登る

こと数分、変電所を通じ

ると坂は益々急に風景

を眺めると、

谷口藍田をして鯉湖と称せ

る。眼を西南に轉すると

伊万里灣は

北に開け、やがて竹の古場

公園に達する。

郷土の詩聖

線となる。松浦開発の祖、

松浦直公をまつる青幡神社

を右に見てだらだら坂を登る

こと数分、変電所を通じ

ると坂は益々急に風景

を眺めると、

谷口藍田をして鯉湖と称せ

る。眼を西南に轉すると

伊万里灣は

北に開け、やがて竹の古場

公園に達する。

郷土の詩聖

線となる。松浦開発の祖、

松浦直公をまつる青幡神社

を右に見てだらだら坂を登る

こと数分、変電所を通じ

ると坂は益々急に風景

を眺めると、

谷口藍田をして鯉湖と称せ

る。眼を西南に轉すると

伊万里灣は

北に開け、やがて竹の古場

公園に達する。

郷土の詩聖

線となる。松浦開発の祖、

松浦直公をまつる青幡神社

を右に見てだらだら坂を登る

こと数分、変電所を通じ

ると坂は益々急に風景

を眺めると、

谷口藍田をして鯉湖と称せ

る。眼を西南に轉ると

伊万里灣は

北に開け、やがて竹の古場

公園に達する。

郷土の詩聖

線となる。松浦開発の祖、

松浦直公をまつる青幡神社

を右に見てだらだら坂を登る

こと数分、変電所を通じ

ると坂は益々急に風景

を眺めると、

谷口藍田をして鯉湖と称せ

る。眼を西南に轉ると

伊万里灣は

北に開け、やがて竹の古場

公園に達する。

郷土の詩聖

線となる。松浦開発の祖、

松浦直公をまつる青幡神社

